WNSUW
5741
May 1892
30 319

女學雜誌

第三百十九號
明治二十五年五月廿八日發兌

「人物管見」を評す　愛山生

議院戰畧を決する

宮闕近侍（社説）

將來平和を保もつ者

獨逸婦人の教育　チッキ

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌改正廣告

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 319. MAY 28th. 1892.

EDITORIAL :—

CHILDREN'S COLUMN :—The Flower of the Family

BIOGRAPHICAL :—Luther's Mother.

CRITICAL NOTES :—

MISCELLANEOUS :—German Women's Education

ORPHAN'S FRIEND :—

CONCERNING WOMEN :—

第三百十九號目次

● 社說　宮闕近侍

● 兒籃　吾やどの花(若松しづ子譯)

● 史傳　僧ルーサアの母(下)

● 批評　人物管見を評す(愛山生)

● 雜錄　獨逸婦人の教育(ヂッキ女史)

● 孤兒之友

● 女報

巖本善治編

吾黨之女子教育

小形二百十七ペーヂ
定價郵稅共金拾錢

「吾黨の女子教育」成る。巖本善治君の演述又は起草に係るものを編せしものにして、本校教育の精神、期圖、大率ね之に同じく、現今實施する所ろ亦之に異なるとなければ、此書亦用ひて「吾校の女子教育」を代言するものと謂つべし。故に、君と計り、吾校之を版にして、世の同志に示すとす。

全篇十五章

明治女學校生徒に告ぐ	一
目下の女子教育法	一
何をか中正の旨義と云ふ	三十
女子教育に關する幾多の謬見	三十
女學及女子教育	五十四
母妻論	六十四
女學に反對する者の言論	八十四
日本女學讀本の編纂	九十二
女禮と躰操	百
上 躰操	百
下 女禮	百五
女學校の裁縫科	百十二
塾舍に三の法あり	百二十二
武道の辨	百二十七
老母に代つて女學生へ苦情	百五十
細君內助の辨	百五十九
當今女子教育者の胸臆	百九十七
女學普及の經綸	二百〇七

發兌元　明治女學校

發賣元　東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌改正廣告

發企の由來

女學雜誌の編者、近頃中國四國九州を漫遊し、つくぐ\と世の有樣を觀、且つ本誌年來の愛讀者と會談して、會得したると多し。日進の文明を慕へる年若き方々は、女學雜誌が掲載する社會改良の論說、文學上の批評、人物論、または、詩、歌、俳諧、小說、などの類ひを特の外に佳とし、かゝる類を要め玉ふと切なり。然るに、晩學の婦人、また實際家政を擔任せらるゝ主婦、もしくは、打よりて何ものをか會讀せらるゝ婦人會などの會員たちは、女學雜誌が掲載する家政、兒籃、理學のはなし、問答、烈女賢婦の傳紀、育兒、看病、小供のはなしなどを尤とも益ありとし、他を省きて成るべく此類を多く掲げよと所望せらる。二種の愛讀者は年來の友にして、双つながら吾等が幾久しく交わらんとを欲する所ろのものなり。たゞ其の要求の互ひに相違して、而も各自理わりあるにより、双方の望みに應じ、且は二つの向に對し心置なく力を伸し、存分に長所を發揮せんと思ひて、遂に此度び改正の發企を爲すに至りける。

改正の方法

右の主旨により、下の如く改正す。改正法を一言すれば、即はち、女學雜誌を二種に分ち、一種は青年男女の爲めにし、他の一種は晩學又は老成の婦人の爲めにすると是れ也。發兌の回數は是迄に同じく、依然毎土曜日に出版すれば、青年の爲にするものと、老婦人の爲にするものと、隔土曜日に交るぐ\出づることなり。大凡そ、一種の爲めに月二冊づゝ發兌し、土曜日一月に五回ある時のみぞ、一種の方に三冊を出すとあらんとす。代價は元の儘なり。二種を共に購讀するもの、即はち、從前のまゝにて購讀せらるゝ方にとりては、是迄と左して變ることなし。たゞ、殊更ら、青年の爲め、老婦人の爲めと專ぱらに定めたるものを、かはるぐ\に讀み玉ふとなるべきのみ。異なる所ろは、從前は月四冊を通じて購ふべきとと限られしを、今后は月二冊づゝ購ふとも差支へなきととなりたるなり。今ま左に、各種別々に購讀する時の代價、及び双方合して購讀する時の代價を、念の爲め表示す、

女學雜誌(甲號)青年男女の爲にするものは表帋白
同(乙號)晩學又は老成婦人の爲にする者は表帋赤

甲號乙號の中ち、一方のみを購讀するときは

半年前金　七十三錢　府外は七十八錢
一年分同　一圓卅錢　府外は一圓四十三錢

甲乙双方を合せ購讀する時は從前の如し即ち

半年前金　一圓四十六錢　府外は一圓五十六錢
一年分同　二圓六十錢　府外は二圓八十六錢

何れにせよ、一冊うり、又は十冊前金は如左

一冊　六錢　郵稅五厘　府內無郵稅
十冊　五十八錢　郵稅五錢　府內無郵稅

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

白は青年の爲にす、源氏の如し、自ら武、元氣多し。
赤は主婦の爲にす、平家の如し、自ら文、人情多し。
白も赤も共に題して女學雜誌とす、只だ甲乙に分つ。
二者代價は同じ、合すとも別にすとも讀者の自由也。

白表 女學雜誌 揭載一斑

社說の欄内には、女學の眼光を以て、社會万般の出來事を觀察し、就中、矯風、道德、慈善、教育、傳道、美術、文學等に重を置て、多年密かに任ずる所ろの吾社中の意見を吐露せんとす。**論說**の欄内には、社外の人に請ふて、注意すべき問題に關する時々の文章を收め、又た海外の新書若くは雜誌に現はれたる有益なる論說の反譯を揭載す。**批評**の欄内には、新刊書及び雜誌等を成るべく公平且つ綿密に批評し、紛々たる新刊書山の如き中に就き容易く撰擇するの便に供えんとす。**摘要**の欄内には、新刊書及び雜誌新聞紙などに揭載したる者の中ち有益と認めたる者の要を摘て記す。**文藝**の欄内には、文學、美術に關する古今の秀でたる論說批評を揭ぐ。**問答**の欄内には、四方の問に對する社中の意見を答述し、又讀者が互ひに問を掛けて討論するの演壇とし、義理を發揮論定するの判所とす。**雜錄**の欄内には、以上の諸欄に收め難き有益有味の雜品を收錄すると例の如く其の他**小說**の欄あり**寄書**の欄あり**時事**の欄あり**史傳**の欄あり其他時に臨み折に觸れて樣々の欄を設け極めて眞實に吾社中の意見及び愛好する所ろのものを世上に告白せんとを欲す。

右白表(甲號)女學雜誌六月四日に第三百二十號を發兌し、以后隔週土曜日に追號出版す。一冊六錢郵稅五厘。

編者は從前の如く、社員も亦た變らす、只增加す。
社は依然として東京麴町區下六番町六番地にあり。
一冊六錢郵稅五厘、十冊五十八錢、郵稅五錢。府内無稅
廣告料一行一回十錢宛、三回以上一割引、六回以下二割引

赤表 女學雜誌 揭載一斑

社說の欄内には、折にふれて女の心得べき大切なる事を最と眞實に且つ平易に論じて、斯る時に斯く爲すは當社中の意見なりと云ふとを告げ參らせんとを欲す。**家政**の欄内には、育兒、看病、家内衞生、產前產后の心得、衣食住の事、簿記、經濟、物價、一家の取締方、下女下男の召使ひ樣などを追々一々精しく說明さんとす。**兒鑑**には、子供のおはなし、又は子供に見すべき畫撰樣などを揭載す。**講義**の欄内には、色々の學科を最と分り易く講釋し、又た書物を定め自宅にて獨修するの便となるやう六かしき所を解き明かし、惣じて靜けき窻の内に獨り物まなびする人の助けとなさんとす。**批評**の欄内には、新版の書物雜誌などの大躰を示し、讀みて益あるや無しやを告げ、無益に時と金とを費やすなからしめんと欲す。**文學**の欄内には、文章の作り方、歌のよみ方などを敎え、且つ折々は、文章を直し、歌に點したる所を示して其工夫を實際に說明せんとす。**史傳**の欄内には、賢婦烈女の傳記又は女の事にかゝわりたる歷史やうのものを揭げ、古に鑑みて今の敎となさんとを欲す。その他**雜錄**には固より、樣々の品を面白く取集め、**小說**には清よく益ある者のみを揭げ、その外、**拔萃**の欄には、古今の書籍雜誌中より、婦人の心得となるべき者を、そこはかとなく隨つて集め隨つて錄す。或ひを解き疑を晴し、互に人の煩ひに助けせんとて**問答**の欄を置き人々の自由に問答するに任せ、社員も亦た思ふ所ろを答へんとす。**女報**には内外の婦人の景況を細大漏すとなく揭載し、各地の通信を確實にすべし。**寄書**には成るべく四方の婦人の實際の經驗又はふと思付きたる事柄などを記したる文章を收錄す。其他は時に臨みて折々に欄を設け、凡そ婦女子に益ある事は遺すとなく此の紙上に揭載せんとを吾等が切望とす。

右赤表(乙號)女學雜誌六月十一日に第三百二十號を發兌し以后隔週土曜日に追號出版す。一冊六錢郵稅五厘

印刷者 東京下六番町六番地 堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第三百十九號　明治二十五年五月廿八日發兌

社説

宮闕近侍

（一）正奸忠賊猶ほ烏の雌雄の如し

撰擧干渉を憤ふる聲地下に鬱勃し將に一大吐憤を爲さんとしたる季節は、東都に於て翠陀の花や〻微笑し將に綻ろび初めんとするの季節にてありき。余は、此季節に於て東都を出で蒲生君實が足利尊氏の木像を鞭ちたる西京等持院の邊りを過ぎ、備前岡山に、和氣清麿の功勳を紀念し、安藝廣島に賴山陽が父母の郷を去つて輦轂の下に奔りたる故跡を追懷し、福岡に平野次郎を思ひ、久留米に高山彦九郎が慷慨割腹して勤王の正氣を煥發せる多恨多涙の跡を弔らひ、尙且つ、佐賀、福岡、熊本三縣下に於ける撰擧干渉の亂暴狼藉なる故戰塲に臨み、落花紛々たる樹下に立つて、感慨痛歎の念を禁ずると能はざりき。

五月十二日京に歸る。前一日貴族院に會津の人山川浩氏が建議案出でたり、院は大多數を以て、

本年二月衆議院議員總撰擧を行ふに際し官吏の其競爭に干渉し之が爲め人民の反動を激成す遂に流血の慘狀を呈するに至れり此事たる衆目の視る所ろ衆口の訴ふる所にして今や地方到る處ろ官吏の撰擧に干渉したるを忿怒し官吏を敵視するの狀あり、

と議決したり。此日、衆議院にも亦た上奏案出で、院内非常に激昂し、超て二日、中村彌六氏の緊急動議出でたり。此時衆議院は、無類の大多數を以て、

官吏が其職權を濫用して選擧權を侵犯したるは其證跡明確にして全國人民の具瞻する所區々の辨疏を以て之を蔽ふ可きに非ず本院は認めて以て事實と爲す内閣大臣は宜しく反省して其責に任じ自ら處決する所なかる可らず否らざれば立憲制度の大綱を失墜せん茲に之を決議す、

と議決したり。

政府は、前議會の議員は國民の輿論を代表せずと宣言して之を解散し、右決議文に明示せるが如き干渉を以て多くの味方議員を撰擧せしめたるにも拘はらず、此回更撰后の衆議院は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

更に復た如此き議決を爲したり。云く、官吏は其職權を濫用したり。云く、官吏は撰擧權を侵犯したり。云く、內閣大臣は其責に任じ自から處決する所なかる可らずと。

政府は果然之に停會を命じ、停會七日の后ち空々然として復た開會せしめ、斷えて、國民眞正の輿論を顧みることなし。而して、其の聲言せしむる所ろを聞けば則はち云く、內閣大臣は唯だ、陛下に對して責を負ひ奉るのみ、之に關して、啄を容るゝは、陛下の大權を侵し奉るものなり、人民にして、陛下の大權を侵し奉つるは、不忠之より甚しきはなし、違憲之より大なるは無しと。

（二）天日遍射

自由黨は嘗て宣言書を發し、今の內閣を信ぜざることを明言したり、亦た其黨議を確定し、今の內閣が立案する所ろの政策を多く否定したり。即はち自由黨なるものは、內閣を信ぜず其立案を否とするの一大政黨なり。

此大政黨員に推されて、星亨君議長候補者たり。吏黨は渡邊洪基君を擧て、之に拮抗せしむ。開票算數し來れば、得點の差多しとせず、只僅かに十二點の多數を以て、星君三候補者の主席に立つ。此に於てか、陛下は、其信任し玉へる內閣大臣を信任せずと明言し、此大臣が立案せる所ろのものを一々否定せんとする政敵の推擧する所ろたるにも拘はらず、遂に星亨を以て議長なりと勅撰あらせられたり。

陛下は國民の大父たり。內閣大臣ひとり其臣たらず、四千万人皆な其臣民たり、吏黨と云ひ、民黨と云ふ、畢竟たゞ政治上の意見を異にするに過ぎず、均しく同胞にして、亦均しく陛下の臣民たり。陛下は之に君臨父護して、蒼生を見るに厚薄を置き玉ふことあるなし、國民多數の意向を察して能く之を善導訓諭し玉ふあるのみ。

帝室は天日の如し、政界風雲の上に超然として立つ "Behind the clouds the sun is shining," 不斷、温光を發ちて、下地を養ふあるのみ。風雲は變遷交代し、上下に新陳代謝すべし。其の上面に浮び、中天にたなびくの故を以て、天日を隱蔽することある可らず。

（三）舊公卿諸君

前年黑田內閣の末路に當り、條約改正の議失敗して內閣國民の輿論に逆らひ、諸大臣皆な責を讓りて只管ら辭職せんとす

るに當りては、輕帆風を孕みて疾逃するのみ、毅然最后に殿して八方の難波に敢て當らんとしたるものは、只唯だ故三條相國のあるあり。當時、三條公血を吐きて卒倒す、憂悶察知すべし。公は身を以て國に許すのみならず、先づ一身を、陛下に献げたり。公は素と陪臣にあらざりき。宮闕に奉公すると二十余年、其　陛下に於ける、啻に邦家の良臣たるのみあらず、亦た内廷の忠臣たりき。

今の内閣諸公は、素と皆な陪臣無位の人なり、もし當年の身分を繰返さば、草履取もあるべし、足輕もあるべし、藪醫者もあるべし。斯る卑賤の身分を以て、今日位人臣を極むるに至るは、蓋し諸公に非凡の性質ありて、　陛下の信任を蒙むり玉ひたるが故なり。

但だ夫れ諸公の　宮室に於ける、故三條相國以下もとの公卿諸公が　陛下に於けるとは、緣因同日の比にあらず。今の内閣諸公は維新后成上りの臣なり、彼の公卿諸公は、千年舊情誼の臣屬なり。

余は、平家壇浦の末期を以て、人情に遺憾あきものとせり。一族和合して死す亦た好からずや。余は、徳川氏の末路を以て、人情の祝すべきものとせり、お家のお爲筋を思ふ忠實の臣下何んぞ彼の如く多かりしや。情誼は人の生命なり、情の爲に死するは靈の爲に生くるあり。誰か徳川氏末路の爲めに其君臣の情誼切なるに感ぜざらん。

余は、日本四千万の臣民が、悉とく　帝室の爲に万年の情誼に熱切なるものとならんヿを祈る。然れども、内庭に接近し、咫尺に奉侍する所ろのものは、成べく、舊の公卿諸公たらんヿを熱望す。禁闕の壯嚴、寛永寺增上寺に劣り、王政未だ、復古せず、天日久しく西京草塵の間に降り玉へりし比ろより多年御苑に出入して、花木禽鳥に代るの慰さめを奉りたる人々は、則はち亦た方今皇城に親近して、皇慰に侍べり奉つるべきものなり。

余は近ごろ、貴族院内に於ける公侯諸君が、俄かに大ひに憤激し玉ふものあるが如きを見、ひそかに其源因を默想せり。

余は、舊の公卿諸君と、今の内閣諸公と相離るゝヿを遺憾とせず。たゞ舊の公卿諸君が、皇城を去る遠からざらんヿを深く熱望す。

宮内大臣、及び内廷の奉侍には、成べく舊の公卿諸君が任用せ

三

○○○○○○られんことを祈る○。政界風雲の變によりて、陛下接近の奉公者が爪蔓伴隨せざらんことを望む。

（四）　方今の大問題

忠奸は何によりて分る、童謠云く、勝てば官軍たり、負れば賊と。内閣諸公に同意せざるもの、何んぞ必らずしも皇室に負くものならんや。陛下は、内閣を信ぜずと明言せる政黨の推撰する所ろを勅可あらせ玉へり。此時に當り、内閣諸公は曰く、陛下の信任あらせ玉ふものを可否するは大權を侵すものなりと、而して國民の輿論を代表すべき帝國議會の議決に對し、恬として顧みる所ろなくんば何如に。むかしは良相、細瑣の爲めに退引し、重く責を荷ふて、民言の宮室に及ばざることを願へり。如此き、名臣の言行載せて史乘にあり、百年の青鑑歷々として顏色を照す。ひとり明治年代に於て、其好例を欠かば何如ん。

政黨は吾人が關與する所ろにあらざるなり、黨人の偏僻せる論策は吾人が服する所ろにあらざる也、然れども此回撰擧干涉の事の如きは、立憲人民の決して容赦すべきものにあらず。此は政黨論にあらず、此は政策論にあらず、此は内閣と民黨との權力爭奪論にもあらず、實に人權死活の問題なり、邦家生滅の問題なり、人の生ける血、生ける靈を以て黑白を分明にすべき大問題なり。

吾人は之が爲めに、内閣の總辭職を勸告するものに非ず、況んや彼の黨人の乘取策に雷同して、源平朝夕の一去一來を希ふものならんや。

たゞ深く憂ひ切に掛慮する所ろのものは、此際、暴りに、帝室の威嚴に假托して、私利を至尊の名に包むもの魔出せざらんこと是れ也。一方に兵力を暴用し他方に暗殺を妄用し、東洋最始の立憲國をして、永く白皙人種が論材たらしむるなきこと是れ也。在野黨も至誠を以て人權の爲に憂ひ、在朝黨も眞に陛下恩使の仁に酬ひ奉つらんこと是れ也。

（五）　餘情慘澹

氷川の老伯、最近の時事に冷潮して曰く、何處かに御親翰を賜はりたる人があるだらふ、其人が一つ骨を折るのサと。平野國臣、歌ふて曰く、

見よや人、あらしの庭の紅葉は、
何れ一と葉もちらずやはある。

兒籃

我か宿の花

第五回（上）

第二の赤子

若松しづ子

時の經るに隨て、ルーセの厄介と仕事が彌々殖え升た。赤ん坊が漸く歩く樣にあつて、おもちやにとて燒立て居る薪を火の中から引づり出したり、井戸側へ這ひ登つて、手當り次第の物を投げ込んだりして、家中の人に恐ろしがられて居る時分に、若紳士がモ一人そこへ立顯れ升た。ハテは朝、髮を結ひかけたまゝ來着の客人に挨拶するとて下へ下り、

これはしたり、若樣ようこそといひ度が、さておまへ樣よりはまだ／＼うちになくてならぬものが澤山あるのを御承知なかつたのですか？

いひながらキスをし升たが、ハテの顏が冷たかつたので、赤子は泣出し升た。

オヤ何を泣て居るの、わたしたちが何かお上げ申すものでもあるとお思ひなさるの、どふして／＼、とんだ貧乏な家へ御來臨ですよ。

ルーセは優しげに赤子を抱き取り

兎に角、溫かな歡迎丈はいたしませうよ。

これを聞て、母は有難さうに打笑み、ルーセの顏を見つゝ靜かに

マア、おまへ本當に歡迎がして遣つて吳れられるかへ？

エー／＼おつかさん、それ計りでい有りませんよ。

そこで、子供を抱いて、臺處の火のある方まで行き、子供だちに小さな桃色の顏を覗かせ升た。第一の赤子が第二の赤子に自分の場處を押領されたと見て、大叫びに叫んで不平を洩し升た。そうして、ルーセの注意を自分の方へ引かうとして、其着物を頻りに引升た。ルーセは赤子の爲めに氣遣つて、

誰か早く連れて行つて頂戴よ、ソレ。

リベカは

わたしなんかに、手を着させるもんですか？ルーセさんが始終お世話をしなさるんで、わたしたちとはすつかり緣切なんだもの。

それは本當のことでした。この頃はルーセが姉も母も一人で

兼帶で居たのでした
そんなら、あなた赤ん坊に着物を着せて下さいな。
と姉にいつて、ルーセは火の側の低腰かけを譲ふとし升た。
リベカは恐ろしさうに後ろへ下り、
アレ、あたしに、そんなことが出來るもんですか? 臍の緒切つて、そんなことしたことがないんですもの。
それはさうでせうけれど、誰かしら、しなければならないでは有ません。ホレス(先の赤子のこと)の守も出來ないと仰しやれば、どふして好か分りませんワ。アーサさん〱、あなたホレスを橇に乘せて少し歩いて遣つて呉ませんか?
寒くさへなければお易い御用です。
ナニ、よふく裹みさへすれば、なんとも有升まいよ。サアハテさん、見てお遣りなさい。ネイ?
ハテはいつもの性急に仕度を装ゑ升て、間もなく二人で外へ行升た、ルーセはそこで赤子を捲いた布を、取り去り、代々お役を勤めて、薄切れのした着物を着せやうとして居升と、アーサが聲を限りに泣き叫んだホレスを抱ひて跳び込んで來升た。

僕が引出すと、直ぐ後ろへひつくり返るんだもの。
とアーサがいひ升と、ルーセが、
アレ、マア、ハテさん、あんな赤ん坊ですもの、あたりまへでは有ませんか、どふかして結ひ着けてお置なされば好のに、だから、しつかりつかまつてと、いつて置たのに、本當の事いへば、今度の赤ん坊の側へ置くと、餘り大きく見えるもんだから、まだ年が行なひの忘れつちまつてたんですよ。
それじや大きな籠へ入れて、その籠を橇へ結びつけたら好でせう。
とは、アーサの思ひつきでした。漸く本氣になつたハテが、
本にさうすれば好かつたのネ。
子供たちは爐圍に立ち塞がつて、賞嘆して居ると、ハテはホレスを好い鹽梅に籠の中へ詰め、中から出た處が巣の中から首を出した小鳥の樣にし升た。其顏には涙の跡のある中に、笑が見えて居り升で、小さな手で兩傍へつかまり、シャンとした具合に若殿の威嚴が有升た。ルーセはアーサの忠告の圖に當つて、好結果のあつたを見て、嬉しげに、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

おつかさまにも、お眼におかけなさいよ。

子供たちは籠を持ち擧げ、得意顔に母の側へ持つて參り升た、母は折しも、間を隔て寐床から子供たちの様子を伺ひ、再び團欒の、時を待遠に思つて居つた處でした。ホレスは籠の上から顔を出して、ルーセの膝の上なる赤子に小さな色白な指で指ざして

坊、兄ちやん、赤ない、

といつて、兄の格式になつたを滿足して、あららへ行き、他の子供たちも共に出て行き升た。ルーセはそこで漸く手を空て、赤子の世話が出來る樣になり升た。

リベカとハナは側に立つて居て、留針や、小さな着物を渡したり、批評したりし升たが、實際困難な仕事に當つたのは、ルーセでした。子供の泣く中に、あれこれと掛念しつゝ爲すとでしたから、イラ〳〵と逆上氣味になつて來升た。それで彼方にある母に

おつかさま、こんなに不器用なの御覽なさつて、チリ〳〵なさるでせう。

といひ升たが、母は疲て靜に眠升て、應答は有ませんかつた。

オヤ、好かつたこと!、キットおうるさいだらうと思つて居たに。皆さん、どうやら、こふやら、保姆が務められる樣ではありませんか、

といひつゝ目を閉ぢて、膝の上に寐て居た緑兒を嬉しさうに見遣り升た。

ソラ立派な兒でせう。

スルト、リベカが

本に着物を着てしまつたら、豪勢と立派に見えて來たこと。

ハナは姉の言葉を聞くとひとしく時と場合を憚りながら大吹出しに吹出し升た。父は其中、母の寐間から出て來て、拔足しながらソット戸を閉め、小供たちに向ひ、

おつかさんは眠つてお出だ。みんなの看病も大分能くいつたな、産後にこふ早く眠るとは今までにないことだよ。

此時ルーセはホレスの誕生の折に、心中密かに悦ばなんだことを思ひ出し、此度の出産には力の及ぶ限り、立働いて頼め合せをするのを嬉敷思ひ升た。

看護婦といへば、大層なかゝりで御座い升からネ、私共計りでもキット都合よく參りませうよ。

と、ルーセのがいひ升た。ハナは

此人は少し眼でも開けて、わたしたちに初對面の挨拶をすれば好に。

生れ立ての赤子に·余り大した要求は出來ませんよ。だが、たれから、おつかさまのお粥を拵らへなければならないから、誰か赤ん坊を取つて下さいな。

と既に赤子に對して親心になつたルーセがいひ升れば、リベリは平常の割には威勢よく、

アレ、あたしはおつかさまのお粥を拵らへさせて頂戴よ。

わたしには赤ん坊を抱かせて頂戴よサア、まだ一度も抱ませんの。

とハナが願ふに任せ、ルーセは赤子を渡して、外へ出た子供たちの樣子見に外表へ行升た。間もなく、歸つて來、

一人も見えませんよ。アーサに遠くへ行なつて、いへば、好う御座んしたに。おとうさま、あなた上の方へ入つして、みんな歸る樣子か御覽遊して下さいませんか?。

雜作もないが、これから、牛に藁を遣つて來ないではならんからネ、モウ遠にしなければならんのだつたから、子供らの事は心配せんが好よ。何事も有るものではないから。

父は疲れ果てゝ放心して居る樣に見え升た、昨夜、出產で徹夜して居る中に、さまぐ〜安からぬ思が心を惱ませたといふ譯は、この度生れた子は十人目のでした、然るに九人丈の養育さへが困難で有つたのでした。急ぎ外へ出た父のあとをルーセは暫らく眺めて佇んで居り升た、一方ならず父の心中を惱ます事情を一々承知して居り升たと故、如何にもして、其重荷を下して上度と切ない思ひにくれ升た。今心の中に、「あの恐ろ敷借財の事をわたしとアーサさん計りが見付けたといふが不思儀の樣だ。併し他の兄弟たちは假令知つたとて、わたしたち程苦勞にはせぬであらう。リベカさんはあの通り、何も苦勞になさらぬたちだし、ハナさんは尙さら、人の苦勞を借て來ずとも、などゝ、平常からいつて居るのだから……それはさうと、アーサさんは、あの事が有てから、かつきり樣子違ひがした樣だ。時としては、三度の物さへろく〜食べず、成る丈殘す樣にして居るかと思ふ樣だ、併しそれを尋ねだてしたとて、何の益にも立ない、と獨り考へつゝ肩掛と頭巾を取出して、アーサたちの樣子見にと出かけ升た。夫から新敷生れ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

た赤子の事に思が立歸るにつけ、ルーセの心の内の何物かゞ「サアこれからは勉強の時間が有りますか」と問ひかけ升た。「どふか知れぬが若し其時間がなくとも、差支はないと」雄々敷締らめやうとして見升たが、眼に堪へた涙の露は大分差支ある樣に言ひ立升て、ルーセは前後も管はず、雪の中に泣伏し度心地がいたし升た。併し又氣を勵まして急ぎ足に進んで行く中に、身に染む朝風が却て、自分を勵まし慰める樣でした。どふになるであらう、と心に思ひ、それに付て、ある人がどふにかなるであらうといふたのを側の人が擧足をつて、ならなければ、中途で物のごとが滯つて居るといふのかと尋ねたといふ話しを思ひ出し、人知れず少しくほゝ笑み升た。どふにかなるに違いない、リベカさんは近頃幾分か手捷しくおなりだし、ハテさんも段々年をとるし……ア、併し當にならないとは矢張り當にならない、今あたしの留守に迂然跳上つて、仕事や、書物で折々遣る通り、抱いた赤ん坊を落さなければ好が、

〰〰〰〰〰〰

雜錄

左の一篇は獨乙國ゲルクス女史が當年三月二十六日本郷弓町普及福音教會會堂に於て日本語を以て演說されしを筆記せし者なり　筆記者識

獨逸婦人の教育（上）

私が獨乙の婦人に付て御話を致しますならば一般に獨乙の婦人の教育の理想を申し上げるのでございまして、どの婦人でもそれ丈に學問が出來ると申す譯ではございません、又私は獨乙人でありますから好んで此題を擇んだのではございません、頃日は日本でも獨乙の婦人に付て批評をする人が隨分あるから、私にも其事に付て話をしてはどーだと言ふ人がありますから此題を擇んだのでございます、私は此獨乙婦人の教育に付て教育の三通りの區別があると思ます、則ち學校的の教育、家事に付ての教育而して心の教育でございます、唯一方に偏したる教育は人の天から受獲たる才能を充分發達さする事が出來ませぬ、只此の三通りの教育に因て婦人が人間社會に立つ一人として、始めて其義務職掌を充分に盡すとの出來る樣になるとと考ます、婦人が此義務職掌を高尚なる意味

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に於て盡さふと思ますなら、唯外部の目に見へる所に計り注目するでなく、高尚なる點に於て己の周圍を精神的に改良し進歩せさることが極て必用と存じます、私が今日あなた方に向て御話し致すとの中に、あなた方の御參考になる樣なとが、ございますなら私の大層滿足に存する事でございます、

さて是から獨逸婦人敎育のことに付て御話致しますなら、物の順序に從て學校的敎育のとから申上ます、獨逸では餘程前から政府の法律を定めてございまして、子供は男女に係はらず、滿六歳から學校に行かなくてはなりませぬ　夫に據て數十年以來人民一般の敎育が大に高められました、又た此世紀に於て、種々の敎育に熱心なる絶群たる人々が起りまして、己れの一世の力を敎育の事に盡しましたのが、今日獨逸の敎育の盛んなる一の大なる源因でございます、獨逸では女の子が六歳で始めて學校にはいりますと、第一に學ぶ事は、日本でも同じ事でございます樣に、讀み書き算盤でございます、之と共に子供の心を素直に正くする樣な聖書の話を始ます、唯高尚なる事にのみ走らず、實地の事を等閑にしない樣に、此の讀み書き算盤、聖書の話と共に初めから手仕事を始めます、女の子にかく小さい時分から手仕事を仕入れますのは、殊は大きく成りてから手藝に器用なると、時間を無駄に費さないとに氣をつけたのでございます、是迄申上た事はどの女の子も一樣に稽古致すとでございます、さりながら段々事が六ヶ敷成りて參りまして、女の子が自分の地位身分に因て稽古の仕方が異なる事が必用でございますから、どの女の子も同じ種類の學校で稽古する事が出來ませぬ、それ故に三通りの女學校が、設られるとに成ます、そーして、是迄一處に稽古して居た所の女子が、各々其將來の目的に從つて、己に適當する學校にはいります、これから下に此の三通りの學校に付て一々簡單に、其性質を申上ます、第一に普通學校でございます、此學校では讀み書き、算盤、即ち普通學の初歩で、誰でも知りて居なくてはならない事と聖書の話、手仕事を仕入ます、此學校には重に其日暮の職工や、又は農夫の子供、一口に申せば、一般下等社會の娘が參ります、此學校に參る女の子は大きく成てから、手仕事をするとが己の職掌の中の大なる部分でございますから、此學校では他の學校に比べて大層綿密に手仕事を敎ます、尤も此學校では外に敎えると少ふど

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ざいますから、手仕事の稽古に充分の時間が餘ります、此學校に參る樣な子でも、上に申し上た丈の事は是非覺えて居なくてはなりませぬ、女が身分が卑いとて讀み書きも出來ず、世の中の事は己の家の周圍に起ることも知りませんならば、其精神の有樣は誠に哀れな者にて、自分の夫は同じ位地に立つ事は出來ません、西洋で婦人の男子に對する地位が東洋の婦人より高ひのは、他にも源因がありますけれども、此婦人の教育が一の大なる源因でございます、次に女子中學校の事に付て申し上ます、此學校では普通學校で稽古する事の外に歷史、地理、博物學抔を教えます、此學校には多く小さな商買人や小役人の娘が參ります。此二タ通りの學校で全國の大多數の女の子が教育されますから此學校は全國の婦人の教育に大層必用でございます、夫故に此學校の教へ方には充分に氣を付けることを其筋では勤めて居ります、終に私は高等女學校に付て少く御話し致します、當時日本では高等の女學校は重に西洋の風に從て組織してありますから、私が只今獨乙の高等女學校のことに付て御話し致しますのは、他の學校のことよりも、いくらか、あなた方に向て御參考に成るやと思ます、高等女學校になりましては前かど申上げました二たつの學校よりも、稽古することが澤山ふえて參ります、一寸と此稽古することの數を聞きます時は、かよわい女の子の頭に能く是丈のことが、はいるかと疑ひます、けれども其稽古事の數は階級に從て段々殖まして、それに因て生徒も自然になれますから、稽古の出來ない樣なことはございません、高等女學校では外國語、美術學、高等數學抔他の女學校で稽古しないことも加はります、是等の學問に據て大に女子の思考力や、美術的の精神を發達させます、女教師はおもに此高等女學校から出ます、併乍どの上等社會の婦人でも、此學校を卒業して居ります、時は、己の一生に付て大なる仕合せでございます、なぜならば夫丈の學問がなくては、己の夫に充分の助を與え且つ同じ思想を持つことや、子供を早くから學問の方に導くことが出來ないと存じます、此の外にまだ申し上げたいことは、財產、富と申す者は何時どの樣なことがありて、失ふかも知れませぬ、けれども一度充分に修めた學問はいつ迄も殘ります、夫故に兩親が其子供に最も善く殘すことの出來る者は充分に學問を仕入れて置くことであります、夫ですから獨乙の習慣では女の子が此

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

學校を卒業しましてから、多くは續ひて自分に適當し又は自分の好む學問を稽古致します、それは若し已むを得ざる時には、其學問に依て糊口の道を求める爲でございます、此の女子の獨立の出來ることが西洋の婦人の他にすぐれて地位の高いわけでございます、又獨乙では女子に高等の學問を諳誦させるのを目的にせず、其學問實地に用ふることの出來るのを成丈け勤めます、是迄申し上た三つの學校の外に女子師範學校がございまして重に教育學や教授法を教えます、若し女子が教師の試驗を受け樣と思ひますなら、此の學校も卒業しなくては成りませぬ、只今迄女子の學校的教育に付て申し上げましたから、是より家事に付ての教育に遷ります、

批評

人物管見を評す

愛山生

昔しソクラテスの死するや、弟子プレトー、ゼノホン共に先師の事を記す而してゼノホンは寧ろ實際を重んぜし人なりしを以て其師を記すに篤行の君子にして有益なる教訓を垂れたる碩學を以て、プレトーは幽玄なる哲理を進求するの人なるを以て其の師を記するに深邃なる哲學者を以てしたりと云ふ、蓋し龍の道を蛇が知るなり。似たるもの丶事を似たる者が知るなり。英雄は英雄を知り、智者は智者を知る。何に因りて之を知る乎。猶是針芥自然に相引くが如く不用意の裏に之を知る。工夫を用ひず、修練を用ひずして之を知る。所謂肝膽相照す者、夷の思ふ所に非ず。然れども人は必ずしも知り難き者に非ず。只我用心如何に在る耳。

人をして石佛ならしめば止む、苟も活きたる人ならんか言爲動靜必らず其內なる人を顯さゞるを得ず。眉宇の蹙まれる、口角の尖れる、頰の殺げたる、內なる人の品性此所に掩ふべからず、其節を變ずることの屢次なる、其議論の變化多くして憑據なき內なる人の品性此所に掩ふべからず。十目十指嚴然として圍む、若し人の論評を免れんとせば早く棺を覆ふて靑塚の下に眠るに如かず。

民友子、ことを論じ人を論する並びに爽利、天下多く比なし

殊に論人は其特得の技と稱せらる、頃ろ其國民の友に掲げし人物論十四篇を集めて一冊となし題して人物管見といふ。論列する所の人物今日に現存するものは福澤諭吉氏也、板垣退助氏也、大隈重信氏也、伊藤博文氏也、井上氏馨也、山縣有朋氏也、鳥尾小彌太氏也。矢野文雄氏也。此の諸氏は皆世に名あるの人天下の眼孔皆之に注ぐ而も諸氏多くは老驥却て駑に如かざるの看なきに非ず、宇宙の大舞臺は局々に變ず、所謂新舞臺の新立者亦頗る多し、民友子應さに必らず擒へて之を自家藥籠中の物となすべしと信ず。

其故人に屬する者曰三島通庸氏曰森有禮氏曰新島襄氏曰沼間守一氏曰元田東野氏曰中村敬宇氏東野翁を論ずる文中横井小楠氏に論及す、蓋し民友氏の新島氏に於ける子夏子游の徒の孔子に於るが如きあり。心誠に之に服す敬畏の念迸りて文と爲る、諛に似て諛に非ず、佞に似て佞に非ず。自然肺腑の語自ら人を動かすものあり、余等新島氏を見ざる者をして亦感激措く能はざらしむ、之を彼の漫に前人を賞讃して人をして我酒獨り甘きかの歎を發せしむる者に比すれば間唯千里のみならず。

余が最も喜んで讀みしは森有禮沼間守一中村敬宇三氏を論ずるの文なりき、嘗て森氏を論ずるの文出でしとき、余は之を懷にして先輩某氏を訪ひ其意見を質したりき。彼曰へりサスガは德富氏なり、森氏の終始論じ得て盡せりといふべしと余以て知言となせり。沼間守一氏を論ずるの文は明治廿三年夏余掛川の友家に宿し青燈の下にて之を讀めり讀んで厭くを知らず翻讀三四回に及べり、但當時德川武士の典型の七字に不平なりき。德川氏不幸政を失ふと雖とも所謂旗下八萬奚ぞ一二の人物なからんや、直ちに沼間一流の人を把て其典型とせられしは寧ろ酷に非ずや。中村敬宇翁を論ずる文前半敬宇翁の功蹟を述るぶ所、信に麻姑痒を搔く天下の忘恩者をして此翁の功を回想せしむるに足れり。而も後半翁宗教上の變節を擧げて其美事なるが如く論ぜられしは余が首肯し能はざる所也。

我縣に農某と曰ふ者あり、敬宇翁靜岡に在りしとき從學し。翁東京に徙りて后聲望益〻隆かんなり、農某後基督信者となる、曰く中村先生既に此敎を奉ず某等奚ぞ之に倣はざらんやと。我縣又老儒某あり嘗て一たび敎會に來る人怪ん

で其故を問へば、曰く中村既に此道に入る思ふに此中必らず言ひ難きの味あらん、是れ吾が來り聽く所以也と。夫れ基督教の眞理あると眞理ならざると、若くは眞僞相雜はると暫らく論ずると勿れ、士君子身を以て天下の望となる者は必らず其一擧一動を愼重にせざるべからず。夫れ教會に入りて「バプテスマ」を領す是れ人生の最大事奚ぞ輕々に之を見るべけんや、忽ちに附き忽ちに離る余は其可を見ざる也、但「インコンシステンシイ」は英雄の本色なり、大なる者生長する者は必らず「インコンシステンシイ」なりと曰はれば余は唯默せん耳。

之を要するに、民友子は民友子の知るべき的の人を知れり。民友子の是非する的の事を是非せり、而して其明々に認識せる所を以て一筆枉げず之を記せり、間或は婉辭微言せし所ありと雖亦言ふべきだけを言盡せり。我一句以て我友に寄せん曰く民友子を知る者は人物管見なり、民友子を罪するものも。人物管見なりと非邪。

巖本賢兄迎春行、四句に亘る、樂知るべき也、憾むらくは僕臥病三旬、花飛び蝶老して始めて癒ゆ、蓐中唯君の壯遊を羨んで心頻りに癢を覺へし而已、此稿實に病中の草する所、時人の毀譽に亘るを以て我「護教」に載すべからず、君に寄せて正を仰ぐ。

辱弟愛山叉記す

小説

黒頭巾

第八回　十八公子譯

ウエストバアレイの牧師は彼が枕邊にすゝみよりていひぬ。「フーパー神父よ。　御身が遠逝の時ははや近づきぬ。　永遠まで御身をとぢこめん覆巾をとり去らむ準備は如何に」。フーパー氏ははじめはたゞかすかに頭を打ふりしのみなりしが、おのがこゝろのあしざまにとられんことを恐れたりけむ、やうやうにいと細き聲根にてかたり出でぬ。「げに、わが魂魄はこの覆巾のとり去られんそれまでは。　いかにしてもやすまりがたし。

クラーク氏「その所業も其思想もいと神聖く、この世の人の及ばんかぎりほめたゝへんばかり圓滿なる世をおくりたるその人が、かゝる祈禱の中にはてなんこといと口惜しきことならずや。　一致會の牧師ともいはれたりし人のかばかり純潔なる生涯に汚點を殘さなんといと口惜しきことならずや。　わが貴む兄弟よ。　われは一向に願ふぞかし。　かゝるものを御身が上にのこし玉ふな。　御身が今、この世になせし所業の報酬をうけんとて旅立ち玉ふ門出に　いさましき凱旋の記章をば見せ玉ふてわれらを喜ばせ玉へかし。　永久の覆巾のとりさらるゝその前に、何とぞわれをして御身が顔上の其覆巾をとらせ玉へ」。

かくいひ了りてクラーク氏はひさしき年月の不思議の形想をば見あらはさんとすゝみよりしにフーパー氏は俄に力をこめて、寢衣の下より兩の手をさし出し、黒覆巾をしかとおさへ、もしウエスドヴァレイの牧師だにこの死にかゝりたる身と爭んとならばあくまで抵抗なさんと心を決めたりしかば、そを見し人々の驚きはいはん方なく思はず悚然としてたち上りぬ。覆巾にて掩はれたる牧師はいひぬ。　いかで、「この世にては、いかで」。

若き牧師は打驚きてや聲高に打叫びぬ。「さても老人が暗澹さよ。　アゝ、御身が魂は如何なる恐ろしき惡業のあるがためにかゝるさまにて彼世の審判をうけんとするにや」。

フーパー氏は今は呼吸せはしうなりて、咽喉は次第に鳴りはじめぬ。　彼は兩の手をさしのべて之をシカとにぎりしめ、

やう／＼に口をひらき得るまでに玉の緒をつなぎとめぬ。やゝありて彼は寐床の上に起き上り死の神が兩の腕をばつかみ居たらんやうに打戰えつゝ端坐しぬ。この最後の刹那にも、既往の生涯の恐怖をばいまこゝに一ッにあつめて恐ろしき黒覆巾はなほ彼が面を掩ひぬ。されど彼のかなしげなる微笑の痕は、尚模糊たる覆巾よりもれすきて、唇の邊に現はれぬ。

「何故に御身等は我を見てのみ戰え玉ふか」。青ざめたる傍の人々の方に覆巾かけたる顔さしむけてかれはいひぬ。さらば互に顔見合せて打戰えよかし。男子はわれをさけ、女はわれを憐まず、小兒等はわが黒覆巾の爲めに泣きさわぎて、にげまどひぬ。されどこの一片の縐紗はもろ／＼の物象を打かすめて暗澹たらしむる其外には何の恐ろしきとやおりつる。友人がその友人に心の底を開かん時にこそ、戀人が其戀人に其の心を示さんその時にこそ、その人がおぞましくも己が罪業を密に打かくして、造物者の眼前に身をちゞめずなりしその時にこそ、わがそをつけて存らへ、その下に死したる紀號を見て、われを怪物なりと呼べ。ア、われはたゞわが周圍を見ん。見よや見よ、たれかれ問はで人々が面の上なるその黒覆巾を。」

きゝ居たる人々はことごとく恐怖の爲めにうたれて心も心ならざる折しもフーパー氏は溘焉として枕の上に打倒れぬ。覆巾つけたる一箇の死骸は唇頭尚ほ彷彿たる微笑を湛へぬ。人々は覆巾のまゝに彼を棺に藏め、覆巾つけたる死骸は墳墓の裡にうづめられぬ。年去り年來りて青草は幾度か墳墓のほとりにかつ榮えかつ枯れ、墓碑は苔むして、フーパー氏の面は土芥となりぬ。されど黒覆巾の下に纒綿たる一種の感想は思ひ出づる毎になほ、人をして悚然たらしむ。

（をはり）

史傳

僧ルーサーの母（下）

無名氏譯

「アイセナック」の街をさまよひありく一人の寂しきおとこあり。顔蒼く、形枯れ、頭重くして前にたれたり。かなしげなる歌をうたい戸々につきて「パン」をもとむるは、日々食ふべ

きものさへなければならむ。

噫これわがマーチン、ルーサーなり。渠ひとゝせの間「マグデブルグ」に於て學びたりしが、父母はその資の支へがたきを見て渠を「アイセナック」の親族のもとにおくり、其處にて有名なる學校にまなばせむとしたり。しかるにこの親族すこしも渠を顧みざりしかば、今は學問のぞみ眼前にとだへ歌をうたひて食を人の家の門にあざるにいたる。こゝにコンラッド、コッタといふ人の妻にて、ウルスラといふものありかの落魄の少年があはれに寂しき歌をうたふを聽き其悲哀なる姿にうごかされ、そゞろにこれを憐むのこゝろを生ぜしかば、遂に戸をひらいてかの書生を家の内にみちびきこれに食をあたへたるに、コンラッドも亦その妻のおこなひをよみし殊にかの少年のわがこゝろに適ひたりけん、其後たゞちに渠をいれて其家族の一人となせり。

「世に敬神の女のこゝろほどめでたきものはあらじ。」これルーサーがその聖經のうちに書付し言葉なりけり。渠は第二の母といふべきウルスラのためにすくはれて、このけだかき「クリスチアン」の妻とその夫とが與へたる親切の「シエルター」のうちに、かの天地を振盪すべき絶凡なる風骨をそなふるにいたりぬ。渠は勉學のいとまあるおり/\笛のすさびを習ひ得て、こゝに例のさびしき音調を吹くときは最もウルスラの心をなぐさめたりといふ。ルーサーは老年にいたるまできはめて音樂をこのみ、これによりて「ジャーマン、ヒムン」のめでたきものを作り得たり。

さはあれど渠の好みしもの音樂のみならんや。渠は耳の「インスピレーション」を知るとゝもに、また目の感應をしれり。渠は繪畫彫刻のうちにあらはれたる「美」といふものにむかひて眞正なる感嘆のこゝろを抱けり。けだしいかなるものといへども凡て超絕なる思想をそゝぎ神識飄然として天より來るがごときものはこれをとうとむのこゝろを生ぜざるはなし。オーヂン渠を評していはく、「ルーサーの美術を觀るや、詩眼に於ては欠けたるところすくなからず、しかれども自由を愛するの點に於てはいたく勝れたり」と。あるひと渠の最も好めるところを問ひしとき、予が最もこのめるは花と小兒と音樂な

り」といへりとぞ。むべなるかな、渠かつて沈想讀座し過て生をうしなひしとき友人來て音樂を彈じけるに、渠忽然として我に復りしといふや。

ルーサーがその生の母マーガレットにむかひて常に眞實なる愛情をはこびかつてその母を忘れざりしためしは、渠がオーガスチンの僧となりて「アルプス」の風雲を蹈み破りはじめて「ローマ」の都門に出でたりしときに知らる。渠ひとにつげていはく「かの羅馬のことわざによれば、かしこの「セント、ジヨンス、イーブ」に供養したる子を持ちし母はさいはひなりと。予はいかばかりこのさいはひを予の母に得させんと願ふぞや。されどこはねがひの外なり、あゝこのねがひの外なるぞ予の心をくるしむる限りなれ」と。父はルーサーが僧となりしを聞きて大に怒り、渠に勘當の書狀をゝくりしといふ。

かのあはれむべき母マーガレットは、のち愛兒マーチンが改革壇上に立ちて大聲疾呼するごとに、朝となく夕となく日々の祈禱〻て渠のためにもとめざることなかりしといへり。マーガレットはその夫にこのされて世にありしこと僅に一年、マーチンが偉行を見てわづかに漏したる微笑をこの世の形見となし千五百三十一年遂に黄泉の客となりぬ。

嗚呼たれか「エスレーベン」の寒村に生れ樵夫の家に長じかのマーガレットの手にいだかれたる一孤僧にして、渠が氣充ち神通ずるの日、英風そゞろ萬壑を呑吐するの勢をもてポープを一喝のもとに嫚罵するの慨ありと豫想せむや。たれかこの叫天の巨僧を以て「かの音樂は神の人に與へたる最大最美のたまものなり」といひ、又「かの惡魔は音樂を忌む」といひけるそのうるはしきこゝろを想像し得むや。花の園にうかれてはこゝに「パラダイス」のおもかげをしたひ、無心なる小兒を見てはこゝに「エンジエル」の影をゝもふ。そも〳〵氣萬夫より壯なりといひけるマーチン、ルーサーといへども、またこれ五尺の男子にあらずや、これマーガレットの一兒にあらずや。あゝかれひとりマーチンを生みて、われまたマーチンを生み得ざるの理やあらむ。今の世の母たるものその天職をなをざりにして後日臍を嚙むの地を作すことなかれといふ。

孤兒之友

貧婦のレプタ

去る十四日厚生館に於て催ふされたる、婦人レプタ會の發起なる演奏會は、入場者七百餘名ありたりさぞ、爰にいさも奇特なる貧婦の美談を、平野まち子女史より聞くがまゝに讀者に報道せむ。此日乳兒を負ひたる婦人受附に來りて、彼れが夜業の辛苦より日に二厘五毛づゝ積み置きたる、金拾貳錢五厘を同會に寄附せしが、此日は殊の外取込み居り其婦人の姓名を聞き漏し、後にて發起人の尾崎女史等之を聞き、大に感し且つは其姓名を聞き漏したるを遺憾に思へり、實に彼の貧婦が十數錢は、當日の全收入よりも貴けれ、猶詳しきは去る廿一日の中央新聞より拔華して左に掲ぐ

翌日孤女學院義捐の爲め婦人フプタ會の發起にて、厚生館に催ふせし慈善音樂會は中々の盛會にて二頭立の馬車に召されし紳士令孃も數多かりしが、いさも奇特なるは、此日年の頃三十路餘り身に襤褸を纏ひ脊に乳呑兒を負ひし一貧婦受附の前に進み來りて、儂より恥かしげに一封の白紙を取出し、實に輕少の額此美擧を助くるに足らずと雖ども、人傳に此會孤女の爲に盡さるさ聽き、夜毎の内職に儲けし二厘五厘を積置きしもの賤婦の寸志希くば受納せられたしさ云ひ、終つて住所も告げず名乘りもせず衆に紛れて立去りしが、彼白紙には銅貨小錢を取混て十二錢五厘を包みありしさ云ふ、世にも奇特の貧婦かな、天下の紳士よ令孃よ能く此一貧婦に耻づるなきもの果して幾人ぞや

石井十次君の病狀

同君は震災以後健康を害しゝ爲めに三週以來京都同志社病院にありて治療せられ、朝にはヘンリー、ジョージ氏の「社會問題」を、夕にはゼネラル、ブース氏の「最暗の英國」を講ぜらるさ云ふ、病も大に快よく其行く者毎に一團の和氣を感ぜしむるとは、徐に澤山保羅氏がバルナバ病院に於けるが如く追憶せしむさ、炭谷小梅女史も亦來りて看護し居らさ云ふ。

孤女學院及び大須賀亮一君

同院は目下三拾名の孤女を教育せられ、此程明治女學校の卒業生一人同院を助けらる、教育上も大に整頓したり、且つ追々入院者を增加すれば、家屋なほ狹隘を感ぜば、不日亦教場一棟を增築するの計畫あり、又府下今戸邊に新平民の一村落あり、實に其風俗謂べからざるものあり、或る西洋人は大に慨し玆に一の女學校を起せり、是を顯暉女學校さ云ふ、而して爾來此事業に益々困難を加へ來れり、大須賀亮一君は之を受け、此至難の中に立ち、主の力に因て彼の舊穢多が子女を教へ導き居らる、又同君は先頃より農業を首め、若干の桑園も造れり、本年の秋よりは孤女學院の消費する野菜は、君の手より作り出して、尙ほ餘りあるべし。又同院の爲めに信徒さして醫師の助けなかりしが、此程より三澤默治郎君每週數回來診さるゝとさなれり。

小橋勝之助君

同君は去る十二日博愛社を出發し、姫路に立寄り明石に來り、同地の信徒なる醫師湛謙二君の宅を訪問し同君方に一伯せられしが、湛君は肺患の名醫なれば、小橋君を診察して此儘北海道行きの實に危險なるを說き、小橋君も其意にしたがひ當分還にて治察を受け、夫より漫遊の途に登り給へぬ。

松田順平君

同君は岡山孤兒院に至り病痾に罹り久しく加養せられたるが、此程漸く快氣に趣き、去る廿一日歸京せられたり

曉星園本鄉定治郎君

同君は夫人さ共に信州へ所用ありて赴かれ、夫より野州の農場に至らる、而して留守中は、濵野一太郎君が守り居られ、午前は教授し、午後は實業を掌り居らる。當時野州の農場には三拾名の孤兒貧兒あり、本部には廿餘の孤兒貧兒を養ひ居らる。

孤兒院創立廣告

今度無告窮民なる孤兒を引受て之に教育さ職業を授く(雅各一章二十七節)之を私立神奈川縣孤兒院さ稱す

一本院は神奈川縣久良岐郡根岸村字相澤三千百五十六番地に假院を卜置す

(明治二十五年四月五日假院創立す)

一本院の創立に當て大方諸君の贊成助力を仰き之が資途に充んさ欲す請ふ多少に限らず金員物品の御惠與を希ふ

一曾て孤兒あり之を扶助し居るに付現に慈惠の恩賜を蒙りたり依て左に

第壹回報告

一金壹圓也　河村天授君

一金七拾錢也　山形縣米澤市美以教會諸君

一金三拾錢也　横濱慈善會

一餅二包　一大豆三斗

一筆七本　一西洋紙六綴　一新聞紙反古二貫目　以上五點　横濱慈善會

以上

明治二十五年五月

私立神奈川縣孤兒院

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

●三重縣通信

●成田女學校長　三重女學校長成田鋼太郎氏は、此度三重縣尋常師範學校の雇を命ぜられ、小學教員講習所及び本校歴史科の教授を擔當せらる、されど矢張り三重女學校には二時間づゝ事務をさらゝるよし。

●三重女學校の存廢　同女學校の經濟が、すでに振起會にて維持すべからざるにいたりしについては、あるは津市に引繼がしめてその繼續を全うせしむべしといふもあり、あるは有志に説きて再び維持の方法を講ずべしといふもありて、彼れ是れ評議中なりしも、別によき繼續法もなく荏苒今日に及びしが、今の處にてはとても存立すると能はざるにより、成田校長は師範學校教員に轉ずるにいたりしにつき、在校中の女生徒二十余名は、同校長にすがりてその繼續の方法を講ずべきよしを申出で、同氏を始め中矢氏の如きも深くこの方法に苦慮し居る趣きなるが、いまにして之を廢するときは、校舍は勿論器械などのこれ迄全備しあるものを、一朝にして之を失はざるべからず、而してかくの如くたして一たび之を廢せば、他日再びこれを興すの必要生じたる塲合に於ても、現在の如く完備するには多くの資本を要するとゆへ、何とかこれを散亂せしめずして將來に維持するの方法を講ぜんと、振起會を再び開きて議せしに、同會にては、同校財産はこの後女子教育の道開くるのときに於て之を寄附して女子教育の一助とすることとし、その間は保管委員七名を設けて保管せしむることとなりぬ、されど右の如くにして財産を賣却し、その全員を保管せしむることとなりたらんには、もはや閉校せざるを得ざるにより、今の生徒の不幸はいふ迄もなく、折角の校舍諸器械も散亂するにいたる故、保管委員に於ても、財産は現在のまゝにて保管し、同校を引受け繼續せしめんとする人あらば讓り渡さんとするよしなるが、同校は少しく負債あるゆへ、まづ必要ならざる器械を賣却すればこれを償ひ得れども、差し當り繼續の道を講ぜざるべからざれば、去る二十日夜ぞが協議會を開きたるよし、加何にもして繼續せしめたきものなり。

●孝女とせの紀念碑　安濃郡長抽原具致氏の書になれる、孝女とせの碑文は、この程全く稿成りしを以て、名古屋市より石工來りて直に彫鐫に着手せり、尤も落成までは五十日を要するなし。

●大阪通信

●大阪聖公會惠婦人會　本會は大阪に在る四の聖公會即ち聖提庇太、聖慰主、聖保羅、聖約翰、の四教會に働く所の役者の妻女及び婦人傳道者の僅々數人にて成立てるものにして毎月一回例月會を開き左の數條を實行し居れり

（一）日本聖公會の平安進歩及會員相互の信仰の爲め祈禱すると
（二）各自傳道上に關する經撿見聞等を述べ互に益を立つると
（三）月に會費を積立置き傳道の端緒となるべき小册子を印刷し終りのページには四教會の所在町名集會時間等をも記るし未信者求道者に配賦す
（四）婦人傳道上に關する大なる利益得失は會員協議の上日本聖公惣會に建議するとを得

此の外尙數條あれどもそは枝葉たるに過ぎざれば概畧のみ報道する右の如し。

●神戸通信

關西婦人大祈禱會畧況

神戸英和女學校に於て　川本辰稿

明治廿五年五月七日神戸基督教會婦人其主任となり關西婦人大祈禱會を同教會に開かれたり元此會たるや數年前彼我國女子傳道に熱心なるヤングの女史の發起にて關の東西の女信徒相互に氣脈を通じ相互に交誼を厚し益斯道に進まんため同盟祈禱會なるものを起し每年春秋の二李大祈禱會をなす事と定められしが始にて當時關西にては僅に京坂神に在る數教會相同盟して京坂神婦人大祈禱會と稱へ每年二回各地交替にて開き居たりしも月を經日を重ぬるにしたがひ恰も野草の春雨に逢ふて發生するが如く追々加盟者增加したれば每に代員を發出するは稍困難なる教會も少からざるを以て一同協議の上年一回春四月最終の土曜日を大會の期日と定めその秋季に至りては　地方の便宜にまかせ地方連合祈禱會を開き同題をもて祈る事と定められたり爾來氣運の然らしむる所か諸教會の加盟する者年々歲々增加し今日に至りては總て廿四教會とはなれり因て從來の名稱は妥當ならざればとて改めて關西婦人大祈禱會とは稱ふるに至れり

さて今回出席者廿一教會七十五人其他の來會者合せて無慮三百人なりし午前第九時より同十時迄神戸基督教會々堂に於て祈禱會を開かれしが司會者は神戸教會牧師本間氏夫人にして先づ始めに開會の主意を述べられ兼て基督教新聞に記載しありたる同盟祈禱の題にて熱心祈られん事を勸められ次に一同讃美歌を唱へ終りて神戸女子傳道學校卒業生にて當今神戸教會婦人傳道をなし居らるゝ梅澤政子の聖書朗讀并に祈禱ありし再び讃美歌を唱へそれより隨意祈禱ありしが數分間は祈禱の聲ひきもきれず間には一時に二三人も祈られ聽衆其何れに從はんかと打惑ふ斗の事もありしが時既に十時を報じたれば一まづ閉會を告げ十分間の休憩後英和女學校助教授雨俊久子の司會にて第二會を開かれ讃美終るや司會者起立して今回祈禱會の期日を變換せられし理由を述べ尙は今後の期日につき協議せられしが滿堂の賛成にて向后每年五月第一の土曜日と定められやがて此旨を電報以て橫濵婦人大祈禱會々塲へ報知せられたりそれよりギユリキ女史のコロサノ一書三章一二節及び仝十二節より十七節迄を題として我等婦人は慈悲矜恤謙遜柔和忍耐の衣をつけ愛の帶をしめざる可らずとの懇切なる勸續て各教會婦人運動の報告ありて一同讃美をなし大坂教會牧師宮川氏夫人の祈禱を以て閉會せられたり、既に

十二時なるを以て外來客并に兵神多三教會の委員一同へ彰榮幼稚園に於て折詰の饗ありし英和女學校高等二年生二名接待員として出られ殊に諸學校代員の待遇を助られたり當日は近頃稀なる晴天なりければ食後三々伍々或は諏訪山に歩を試むもあり或はわたりの野邊に花摘むなど打とけて快樂なる談笑の内に時を移し正二時の鐘報と共に幼稚園に於て第三會を開かれ和久山きそ子會を司らる第一讚美歌傳道學校卒業生兵庫教會傳道師加藤フサ子の聖書朗讀并に祈禱終りて諸教會の報告ありし右終りて客秋米國より歸朝せられたる神戸英和女學校教授渡邊ツチ子ヨハネ傳十五章四節を以て我等互に力を協わせイエスキリストにつらなりてこそ始て好果を結ぶを得るなれとの主意にて懇篤なる感話をせられ次でフルク夫人の今度諸方傳道に行かれて感ぜられし所及び中澤老人の經驗談等ありて是亦最盛大なる集なりしが既に閉會の時刻なりければ本間夫人の祈禱を以て閉んとせられし時神戸教會員小磯老人は當市葺合村字小野濱なる貧民救濟所に在る孤兒十二名を伴ひ來りしもあまりに見苦しければ皆樣に御目通いたさすは憚多ければ次なる一間にひかへさせ置きたりとて其現今の困難なる概畧を訴へられ爲に一同感涙に袖を濕したる時に岡山教會代員炭谷姉起立して皆樣何卒此孤兒のため何分の義捐金をなしたまへといひて熱心涙を以て祈禱せられしが續きて廣瀬夫人の祈禱ありし時に司會者注意の鐘をならし一同に寄附金募集の旨告げらるゝや即座に十五圓三十四錢四厘といふ高額集り炭谷姉の謝を以て目出度閉會せられたり

偖て今回の集會は近年稀有の盛會にて實に我基督教社會婦人進歩の程思ひやられてうれしかりけり回顧するに此會たる兩三年前までは万事不整頓にして席上何となう騷がしく司會者報告者の音聲さへ聞き取りがたきふしも少なからざりしに今度の如きは秩序整然として席上の靜粛なる末隅にあるものも一言一報聞くに苦しむが如き事絶えてなかりし殊に諸教會の報告を聞くに其頭には白雪をいたゞき軀は宛ながらくの字になりて既に世のつとめはなし終りたりともいふべき所謂頒白の老婦人打集ひて老年會なるものを興し或は毎月或は毎週聖書研究會又親睦會などをなして慈善傳道の事業を助けらるゝ教會も少なからず或は頑是なき兒女を集めて幼年會あるは少年會なるものを組織し幼時より慈善の精神を涵養して傳道の心を奮興させんとて種々力を盡さるゝ婦人あれば又一方に日々其課業のいそがはしきをも厭はで或は病人を慰問し或は未信者の家につきて聖書を教ゆる女學生あり又た婦人會なるものありて傳道に貧民夜學校或は幼稚園保姆傳習所などに於て直接間接に社會に向ひ婦人の活動を試みらるゝなど從來耳にせざる事ども聽くとを得轉感喜に堪へざりき尙ほ今後一年間には今一際めざましき運動せられて來る廿五年度の集會に於ては一しほ好報に接するの榮を與へられんことは今より切望して止まざる所なり。

●山陰道通信

◎鳥取英和女學校は豫て報道せし如く基督教主義を以て設立せられ、目的は國家に賢母良妻を養成するにあり、教師（幹事兼）は井伊松藏氏及び神戸英和女學校卒業村山、同校卒業四宮爾女史外數名。外國教師はミストル、ロウランド（音樂）ミストル、セベランス（英語）ミス、ギル（畫學）等の諸氏にして、現在生徒の數は四十名、學業年限は六年、（本科四年豫科二年）普通の學術を教授す、當地の人士は未だ女子教育の必用を感ぜざるものゝ如く、地方より入學なさしむる者なく、皆な市中の姉妹のみなり、幹事井伊氏は夙に弱冠にして數年間犧牲的に身を同校に委ね、孳々として姉妹等の進歩發達に力を努む、本年七月第二回の卒業生（七名餘）を出さんとせり、世人は未だ氏の名を知らず、氏も亦世に聞を求めず、グレー氏の所謂「海底の眞珠幽谷の美花」てふ的の人物にして實に吾が山陰に於ける女子教育の奬勵者なり、吾人は吾が地方の人士が女子の敎育は大にしては社會の局面に、小にしては個人の家庭に、如何に其影響を及ぼすやを認識せんことを冀ふと同時に同氏の彌々益々鋭意熱心に從事せられんとを望むや切なり。

◎鳥取高等女學校は國粹主義を以て教育を施し天晴れ聖日の日本女子を養成するの目的なり、生徒は數十名にして裁縫生多數を占む。兩校の教員及び生徒一同は孰れも過る日鳥取近傍の濱坂なる海邊に於て愉快なる運動會を催ふしたり。

◎幼稚園は主任教師田中幸子にして生徒數名、漸々諸事整頓せんとす、西村茂樹氏視察の爲め近々來鳥の旨田中女史へ報道ありしと。

◎藝妓移轉の運動は昨今鳥取靑年同志會々員の發起にかゝる、其目的は藝妓の風俗を壞亂するを怒りて之を市外に移し、惡弊を一掃せんとするにあり、吾人は該美擧を贊成す、然れども寧ろ娼妓を全廢するの擧に及ばざるを遺憾とせずんばあらず。

女報

可愛子編

●皇后宮陛下の御誕辰　本日は皇后陛下の御誕辰日に相當するを以て宮內省勅奏任官及び貴婦人方には參內祝賀を申上ぐる由。

●婦人祈禱會　同日、基督教信者の婦人は、麴町上二番町の女子學院に於て、皇后陛下の爲めに、祈禱會を開きて、御祝福を祈り奉る由。

●產婆講習所　東京慈惠醫院にて、今回附屬產婆講習所を設置する由にて、已に同所教員として產科婦人科醫森種太郎氏外二名を聘し、準備も粗々整ひたれば、近日講習生を募集する由なり。

●小蘋女史の畫學楷梯　丹青の妙技を以て屢々兩皇后陛下の叡賞を蒙りたる野口小蘋女史は、先頃華族女學校の教授となりて、一週一日の授業に生徒を薰陶して居られしが、斯ては日數少くして、生徒の進歩も思はしからず、去りとて日々出勤に女史を苦めんも本意にあらねば、何か然るべき工風すべしとの官命ありたれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ば、女史百考の末四君子、花卉、昆虫、翔毛、山水、樓閣、器具、人物の十二貼を畫がき、一貼一拂、あらゆる畫法を示めし、秘訣を擧げ、之を差出したるに、大に當局者の賞賛を博したれば、之を畫學階梯と名けて、同校の教授帖に充つる事になりしと。

●明治女學校に參觀する者多し　京都府高等女學校々長、名古屋清流女學校幹事其他女子教育熱心の士にして、明治女學校に參觀せし者多しといふ。

●婦人英語學會　は去る十一日より英國婦人二名、本邦婦人數名を聘し、専ら英語學を教授する由、土、日、兩曜日は休みなりと、場所は麻布飯倉六丁目二十三番地なりといふ。

●ボアソナード氏多辯の婦人を嫌ふ　佛國法律博士なるボアソナード氏は、歐洲人に似ぬ東洋的思想ある人にて、最も道義に厚く、一と度交れる人をば何時までも失はざらんことを力めらるゝよしなるが、婦人の多辯なるは如何なる知能ある貴ぶべき價値なしとて之を重んぜざれば、常に出入する貴婦人中、氏が太く嫌へる多辯の日本婦人一人ありて、之を忌み避くること栗の刺の如くごみ塚の虫の如しと。（讀賣新聞）。

●史學會講演　去る二十一日午後一時より、神田一ッ橋外帝國大學講義室に於て例會を開きたるが、聽衆凡三百餘名にして、會員關根正直氏は、人身賣買の風俗と題し、上古本邦に於て公奴婢、私奴婢の別ありて、盛んに私奴婢の賣買を許したるが爲め、中世に至り武斷政治の嚴法にて之を禁止したるにも係はらず、遂に良民の賣買を爲すに至り、甚しきは人買なるものありて、妙齡の少女を誘拐し、之を花柳の街に於て公然賣買する等、遂には婦女子の賤業を營み年季俸公を爲すをも、身賣り抔と稱するに至り、醜汚の風俗を馴致したるは、外人に對するも實に愧づべき事なりとの旨を演べたり。

●大日本婦人教育會の景况　同會は去る二十二日午後一時より鹿鳴館に於て開きたり、會長毛利侯爵夫人、副會長鍋島侯爵夫人を始め定刻より追々參集せし淑女百名に近く、中には幼な兒を伴はれたるも多く見受けたり、二時に至り法學博士金井延氏、婦人と經濟の關係と云へる題に就て演説せり、其要領經濟の學理に照し、婦人は貨物消費の方向を研究し、貨物を能く使ふとを力むべく、男子の如く貨物生産の方向を取る勿れ、歴史に徵するに曚昧の時代に在ては、女子も生産的の勞力を執りしが、時勢の進歩に從ひ此風漸く改まり、一家の經濟を料理するを女子が本來の職務と爲れり、然るに近來女子の職務教育を盛にし、女子をして自榮の道を立てしめんとを専らとするは大なる誤りなり、況して日本の如き結婚せざる者極めて少數なる國柄に於ては、家事整理を妨げざる限りに職業教育を止めざる可からず、然らざれば終には女子をして本來の職分を遺れしむるに至るべしと云々、次にエドヰン、アーノルド氏の演説あり、添田壽一氏通譯せしが、其大意は日本の婦人は、古來の歴史に照すに美德を具へたるを見るなり、然るに之に新教育を授くるが爲め、若し此の尙ふべき女德を損する者とせば、余は寧ろ新教育を排することを躊躇せず、然れども此の女德の新教育と兩立することを得ば、之に優れるとあらず、日本社會の骨髓は皇室に忠なる美風に在り、益々此點に注意して進行せば、日本の昌運期して待つべしと云ふに在り、四時頃散會す。

●娼理髮の繁昌　深川仲町にては、娼理髮繁昌なりと。

●女の田舍行　本年は東京の不景氣の爲めにや、春早々より各地方出稼ぎ藝妓の鑑札を願出る者頗る多く、去る四月より本月まで、上野發の滊車にて奥州仙臺筋より上州地方へ掛けて出稼に赴きたる婦人（藝娼妓茶屋女の類）は、日々二十名三四十名迄多人數なりと云ふ、尤も其内にも伊香保其他溫泉場へ赴く者もありとの事也。

●府下藝妓の統計　此程其筋に於て府下十五區に於る藝妓の、四月中の現在數を取調べたるに、千四百六十一人ありたり、其多きは日本橋、京橋、淺草、赤坂の四區にて、内日本橋は三百三十七人、淺草二百八十一人、京橋二百八十六人赤坂、百吝一人なりと云ふ。

●時事新報の非廢娼論　本月十五日の時事新報は廢娼問題と題し、冒頭先づ喝破して曰く。

近年日本の社會にて廢娼の說を唱ふるものあり、或は廢娼同盟又は矯風會など稱して頻りに喋々する其理由を聞けば何れも西洋の學者間に行はるゝ陳腐の說にして取るに足るものなしと而して其論ずる所を見れば廢娼は言ふべからざる弊害あり、娼妓を存して、其害を減殺するに如かず、されど開化の進歩と共に表面の體裁を飾るは人事の必要なれば娼妓の如きは成るべく之を社會の表面に出沒せざる樣勉むるは勿論異議なきとなりといふに過ぎず。吾人は時事新聞記者が廢娼論者ほど事實を調べもせず又廢娼論者ほど國家の爲めに深慮せずして、知らぬとに利口らしく容喙せしを惜しむ、今は廢娼論の是非を論ずべき時代に非ず、直ちに廢娼に從事すべき時代なり。（護教）。

●女學雜誌（第三百十七號）　岩本君は多情多感の人なるかな。見る所必ず感じ、響く所必らず應ず。其心は鐘の如し之を擊てば必ず鳴る。四圍の光景を深く感ずる者、境に順て想の轉ずるを速かなる者、君の如きは稀れなり。是思ふに君の長處にして而して又沈思創慮の力田口、植村の諸君に讓るある所以なり。試に迎春行を把て讀下すれば君の斯の如き人たる瞭々として掩ふべからず。或は長崎熊本形勢今古の變を論じ、或は三池炭礦の煙可憐なる村孃を黑うせんとするを慨し、或は都門と九州との男女の交際を批評し、若くは百二の都城、香園徒らに老ゆるの佳人を憐むが如き、皆是れ吾人が雲煙過眼に倣し去る所に向て感慨と涙とを寄せたる者なり。吾人は君の廣き同情（ブロードシンパシー）を多しとするものなり。（護教）。

●山月子の隨感につきて　貴社雜誌三百十五號山月子の人物修養第三に、自ら公平正義を以て信任するもの愛に乏しく云々：：今日の信者偏僻の者多しと云々：：と、眞に能く今日の有樣を看破せられたり、余も亦同感を表するなり、キリスト教の振はざる實に斯る人物の多きに基けるならん、眞にキリストを愛し、眞に神を敬するものは、是等の弊を除くに孳々として勉め、自ら此僻あるを知るもの、深く猛省して基督の完きを學び願くは山月子をして、否主キリストをして憂ふるなからしめんとを。（杞憂生投）

●八王子の蠶境　同地は養蠶製絲を以て有名なる場所柄ありて、昨今雇子女は三千餘名に上り、養蠶以外の事業若くは集會抔は大概休み居れりと。

●英皇誕辰日　去る廿四日は英國女皇ヴヰクトリア陛下の誕辰日に相當せしを以

同日は居留地橫濱香港上海銀行、新東洋銀行、印度濠太利銀行、チヤイナ、ナショル銀行等は孰れも休行するに依り、從つて各外商も休業すべく、各英字新聞も休刊したり、又在留英人は橫濱港沖合に端艇競漕を催して祝意を表す。

●外人の義氣　去る十五日午后三時頃、和蘭人エムインシアーダー氏、東海道箱根山中通行の折一少女の彷徨するを見、其素性を尋ねしに、遠州城東郡赤土村農赤堀彥次郞二女トキとて、十五年二月なる者なるが、昨年一月以來出京して奉公し居たるも、思はしからざるより僅かに金十二錢を以て國元へ立戾らんとする途中道に迷へるものなりしにて、同氏は憫然に思ひ、同所より少女を連れ湯本より國府津迄小田原馬車鐵道會社の客車へ乘車せしめ、國府津より遠州濱松迄の鐵道乘車券を與へ、外に金二圓餘を惠み、深く後來を誡しめて歸鄕せしめたりと。

●中根中學校長の女子教育談　此程或人が同氏を訪問したる時、談偶ま女子教育の事に及びしが、中根氏曰く、中學校に女子部を置きて以來、一時は少しく盛なる模樣も見へしが、此頃に至り日に月に退步して、目下は三十名乃至四十名の生徒あり、而して其生徒も過半は當町に住せる縣官裁判官等の娘子達にて、郡部より來り學べる者とては殆ど三分の一に過ぎず、是れ畢竟父兄たるものが未だ女子教育の必要を認めざるに基因せるならむ、假し又た必要を認めたりとするも、女子に學問をさすは徒らに生意氣娘と爲らしむる弊あるのみなればとて敢て來學を欲せざるとならむ、去れば婦人社會に取りて一の寃窟とも譬へらるゝ裁縫教授所の多きを見ずや、實に此の裁縫敎授所は婦人女子に取りて太だ有害の所たり、然れども之を打ち潰さんは容易なる事にはあれど、千万氣の毒の次第なり、故に余は來年度より中學校女子部の外に專修部を置きて、專ら裁縫を教へ傍ら簡易の學科を授くる考なりと云々と。(下野民報)。

●故榊原鋼子の追薦歎會　榊原長敏氏の亡妻しつめ子の追薦歎會は、去る九日午後一時、京都花見小路有樂館にて擧行せり。

●畠山勇子一週年忌　去る二十日、二十一日に掛け、畠山勇子の遺骸を葬りたる葛野郡市堂寺村字西寺町末慶寺に於て、追悼音樂法を營みたり。

●久邇女王殿下の御遊覽　久邇宮は愈々東京へ御移住のことに相成りたるが、榮子、絢子、素子、篤子、の各女王殿下は、淸岡同宮事務監督、山口家扶等を隨へさせられ、去る二十一日二番發の滊車にて、大坂を經て奈良へ至らせられ、同地の名所を御巡覽の上同地に御一泊、二十二日は大坂へ出でさせられ、二十三日は神戶を經て須磨舞子濱に赴かせらるゝ御豫定なりと。(中外電報)。

●神戶女子神學校卒業生　迎春行に見へたる同校の卒業生は左の如し、
松子晴子(群馬縣前橋出生)三年間松山教會に働き、當時仙臺に轉任す。
釘本ふじ子(熊本縣出生)初め福岡に働き、昨年より熊本に轉任す。
前田ちよ子(兵庫縣三田出生)卒業後引續き神戶多聞教會に働く。
津田榮子(岡山縣大城出生)卒業後天城教會に於て傳道に働く。
以上明治二十二年度卒業。(合四名)。
八牧ちせ子(高知縣高知出生)土佐教會に働く。
加藤みれ子(岡山縣岡山出生)當時西京四條教會に働く。
留岡なつ子(岡山縣出生)當時北海道に働く。
藤田ちよ子(兵庫縣兵庫出生)當時出雲に働く。
以上明治二十三年度卒業。(四名)。
露無民野(岡山縣出生)當時姬路教會に働く。
加藤ふさ子(鳥取縣鳥取出生)當今兵庫教會に働く。
覓りき子(鳥取縣出生)鳥取教會に働く。
森山のぶ子(和歌山縣出生)當時大坂に働く。
白井せん子(宮崎縣出生)
國府きく子(宮崎縣出生)宮崎教會に働く。
以上明治二十四年度卒業。(合六名)。
梅澤まさ子(群馬縣上野國出生)神戶教會にて傳道に從事す。
堀愛子(滋賀縣彥根出生)新潟教會に働く。
上村うめ子(三重縣伊勢國出生)當時北越に働く。
片岡擧根子(岡山縣出生)大阪浪花教會に働く。
辻ひさ子(岡山縣出生)岡山教會に働く。
久永小原(岡山縣津山出生)高松教會に働く。
松村さみ子(岡山縣出生)大阪教會に働く。
畑恭子(香川縣丸龜出生)松山教會に働く。
以上明治二十五年度卒業。(合八名)

●越後工女の出稼　中頸城郡內にては二三年前までは、養蠶家皆な工女に乏く頗る不便を感じ、爲めに長野縣より稼ぎに來れる婦人少數ならざりしが、昨今に至り其勢反對となり、却て高田地方より長野縣下へ出稼ぎするもの陸續あるに至れり、是れ畢竟するに高田地方に養蠶業漸く盛んに向ひ、隨て工女の數を加ふる故なりといふ。

●宮城婦人教會　去る二十二日午後、仙台東一番丁本願寺別院內に於て、同會の例會を開けり。

●防長婦人相愛會　德山なる婦人相愛會にては、來る二十九日、三十日の兩日、德山共榮社の樓上にて德山婦人協會と合して、相愛會第二回の總集會と、婦人協會の紀念會を催ふし、且つ三日間慈善市を開く由。

●德山女學校　同校を建築するため寄附金の募集中なりしが、最早粗々豫定額に達せしかば、來月一日頃より工事に着手する都合なりといふ。

●讃岐進德女學校に就て　客年十二月の勅令第二百四十三號に依れば、各府縣下に尋常中學を設くるとは定めあるも、同校に女子をして入學せしむるとを許さゞるの規定なる處、其代りには同令中第十四條の主旨に依れば、女子の須要なる高等教育を授くるには、高等女學校なるものを設立し、尋常中學校と相匹敵する學科を設け、我國中流以上の女子教育をして擴張せしむるは勿論のことなる處、本縣にては尋常中學の設立さへも尙ほ未だ確定せざる今日、何條高等女學校の設計を爲すの運びに至らんや、左れば現今の讃岐進德女學校の追々其の好成績を現し來るを幸ひ、本縣に尋常中學の設立を見るの曉に、同校の學科程度を改良し、全然

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

高等女學校の科程に引直す處あらんとて、目下當事者は寄々協議なし居れりとぞ。(香川新報)。

●久米留の置娼論　は殆んど立消へとなりたり、祝すべし。

外　報

●街道に遊戯する兒童の數　アンゼリナ、ブルツクス女史は、紐育の街道に於て、遊戯時間の大半を費す兒童の數を取り調へたるに、四歳乃至六歳の兒童にして、此種類に屬するものは十四萬一千人ありたる由、紐育の一豪商は五千萬弗を寄附して、紐育に一の幼稚園を設け、此等の兒童を教育することを現今計畫し居れりと。

●英國に於る女子選擧權投票の顚末　英國下院に於て女子に選擧權を附與するの議案が否決せられたる、其詳報を聞くに、去月二十七日スア、アルバート、ケー、ロリツト氏は、女子選擧權案第二讀會を開くの動議を提出し、其趣意を説明し「人は云ふ、米國ワイチミング州にて、女子の選擧權を實行せるや、幾多の缺點を發見せりと、然ども本件に關する公文を參照するに、同州に於て女子選擧權を實行せしは頗る利益ありとなせり」と演説するや、自由黨員なるサミユエル、スミス氏は本案否決の動議を提出し「米國ワイチミング州にて、女子選擧權の提出を見るに至りたるは、全く偶然に起りし者にして、教育ある米人は皆女子に選擧權を附與するの議に反對せざるはなし、本案の議決に依りて、利益する所は、唯だ僧侶主義及び社會主義の二あるのみ」と唱へたるに、保守黨の首領バルフオール氏は原案に贊成し「女子が政治に關係するは女子の品位を貶すと云へる妄説を懷抱する者に同意する能はず」と明言したりぬ、却説本案の討議に就き最も喫驚すべき一事は自由黨の形勢なり、同黨は黨議にて現に選擧權擴張を確守し居り乍ら、今回同黨の此女子選擧權案に反對し、却て保守黨の之を提出せしは咄々怪事と云ふべし、然れども英國の保守黨は自由黨の裏を搔くを以て其の平生慣手の政略となし、是より先き千八十九年ヂスレリー氏が選擧權擴張案を提出せし事も、亦此一例なり、偖今回の女子選擧權案に就きては、グラツドストーン氏は未だ一回の發言だも爲さず、終始沈默し居たれども、近日新聞紙に發表せし氏の公開書簡に依れば、氏は女子に選擧權を附與するに反對するの意見を有するは明瞭となり、遂に百五十二に對する百七十五の投票にて否決せられぬ、此日下院の婦人傍聽席には、立錐の地なきまでに充滿し、其内に目立ちしはグラツドストーン、ハーコート、ソーマーセツト、フオーセツト等の諸夫人にぞありける、本案が僅々二十三の多數にて否決せられしは、實に意外にして、實は贊成者の倍數位の反對者はあるべしと豫想したる者も亦尠からざりしと。(國會)。

●イリノイス州婦人醫士學員及看病婦會合　萬國協會附屬婦人内外科醫員部々出ドクトル、サラ、ハケツト、スチブンソン氏の徵集に應じて先頃イリノイス州の婦人醫士及看病婦等は悉く會合せり其主意は健康躰比較治療實驗部々長ドクトルジユリア、ホルムス、スミス氏の發議に依れるものなり、出席者の中には特別内外科醫員シメリーエマ女史、イリノイス州看病婦學校シブラウン女史セントルウク病院のコルチリアマクアヴチイ女史、婦人幷に小兒科病院のアチーストーク女史及びシカゴ婦人科病院のエヂス、モール女史等あり、此等の女醫はイリノイス州婦人協會の補助により同州に内外科及看護婦學校を建設し又同州の保護の下に婦人部附屬として偶發病々院を設立せんとの正望なり、之に應じて同州協會よりは之が設立維持の爲六千弗を出さんと約しぬ。此偶發病々院なるものは特にイリノイス州婦人醫の監督に任せ又婦人醫士會員の一義務として盡力すべき樣爲さしむると云ふ。

●婦人投票權　同事件は漸々好景を現はし今や本年度は報告の如きは紐育府トリビユーン新紙の一面を全く覆ふ程に至れり而してドクトル、ハミルトン、ウイルコツクス氏はアメリカ、ユーロツブ、アジア、アフリカ、チーストレリア州等に於ける進歩の景況を報告せらると云ふ。

●乘合馬車内の掲示　シカゴ婦人等は此頃市街乘合車内に一の美麗なる掲示を出せり曰く清潔と云ふとは即自からの高潔偉風あるを示すものなり、吾人悉く然あり得可らずとも願くは凡て清潔たらんを約し車内に吐唾する等は嚴愼すべしと之に反對し側に又一の掲示出でたり曰く婦人等には之あるとを云ふの要なし彼等は車中に唾するなど自からすらも甚く嫌ふ處なり故に彼等は宜しくそを願ふべしと

●公立婦人協會支部　ミシガン州に於ける同支部は婦人投票權のと幷に各事業の補助に主も盡力す、而して役員はミシガン人にして部長はラシガン府のエス、イー、ヴー、エメリー夫人、副部長はセントチヤーレス府のレナミノル夫人、ジヤクソン府のエー、イー、エヌ、リツチ夫人、書記及事務員はランシング府のアリスマグイアー女史なり。

●婦人教育曾　マサチユセツツ州ブロツクストン府なる同會は去月一日にぞが第一年回を祝せり、會集は主も當府有力家の男女にしてジエー、ピー、セーヤー夫人最初に同會の狀態を話し次てシー、エヌ、ヒリツブ夫人の報告等あり同會創立發起者の一人にして現今日耳曼ベルリン府なるジヨン、グラ、ハム、ブルーク氏より祝詞あり最後に多數の可決により日耳曼なる婦人の狀態を勸めんとの主意もて同事業の奬勵狀を送る事と決せり此會丁度一ヶ年前即創立の際は會員僅かに百餘名に滿たざりしかど一年後の今日は七百人の多きに至れりと云ふ。

●レデーサモルセツト幷にウイラードの二婦風家兩女史は去月九日即火曜日タアムヘルストに催されたる万國婦人禁酒會中年期の集會に出席演舌せられたり、同月九日にはウエレスレーカレージを訪問し大概は白紐を紀章とせる七百人の女生に向て演舌し翌十日には同じくラセルセミナリーカレージにて演舌せられたり。

正札引なし

新形

流行

仕○御進物等ハ美麗ニ調進仕候
右ノ外組糸一切御好ニ應ッ精製

○はをり紐　品々
○帶留類　品々
○時計紐　品々
○メリヤス　品々

組糸老舗
日本橋區よし町
佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

通信女學第三期生新募廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして舊發學に就かぬは最と〳〵少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉強をさ〳〵年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆學問と云ふ事に心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬ、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も茲に入學して日々の進歩目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出て通學することも出來ず又家に教師を引て教を受るも甚だ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨及一昨年、一月通信女學の仕組を新設し、毎月一冊の講義錄を出版して、四方晚學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、其十二月に至り、一ヶ年の課業を恙なく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの八百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義錄を再版し、改めて第三回の習讀者を募る。

教授科目左の如し。

萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學（衛生、育兒、看病と合す）裁縫、圖入地理、英學。

教師は、醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、吉田仲子、渡邊辰五郎諸氏其他重もに明治女學校の教員諸君に委賴し、專ら深切鄭寧を主意とす。

代價一冊前金三十二錢（無郵稅）、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。

明治二十五年一月廿五日第一號を發兌し、以後每月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

品名	五月廿五六日
白米（一石ニ付円）	
一等米	斗 九升八合
二等米	一〇〇
三等米	一〇三
四等米	一〇八
五等米	一一二
正米（一石ニ付円）	
越中米	一斗四升四合
越後米	一三六
美濃米	一四〇
尾張米	一三五
一志米	一三三
雜穀（一石ニ付円）	
本貫大麥	二斗九升〇合
上州小麥	一七〇
竹林麥	一八〇
梅澤大豆	一九五
青柳大豆	一九八
吟小豆	一六七
白胡麻	一一七
黒胡麻	一七五
鹽（一石ニ付円）	
赤穂	俵 三、一五
大鹽	三、二五
本齋	五、〇〇
新齋	五、六〇
醬油（一石ニ付円） 最上・極上・上物・中物・並物	樽 分 厘 七円 七九 八七 一、一〇 一、三〇 一、六〇 一、八〇 二、〇〇 二、一〇 二、七〇
味噌（一石ニ付円）	
地製上白	貫 六、八〇〇
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、五〇〇

品名	五月廿五六日
眞綿（一個ニ付）	
上々入金	一二五、〇〇円
上入金	一一〇、〇〇
並入金	一〇四、〇〇
松入金	九〇、〇〇
竹入金	八五、〇〇
梅入金	七七、〇〇
濱縮緬	
大巾上馴	四、八〇円
小巾百廿日立	五、三〇
同並物	四、八〇
花色絹（一疋ニ付円）	
七十目附	匁 二六、〇〇
八十目附	二七、〇〇
九十目附	二七、〇〇
百目附	二八、〇〇
同小節絹 生八十匁附	匁 四〇、〇〇
同本秩父絹 生百四十匁附	匁 四七、〇〇
六丈絹猩々紅	
五十目立上	五、七〇円
同並	五、二〇
絹糸（一〆ニ付円）	
本練花色	匁 二七〇
同色物	二五〇
羽二重糸	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四五〇
白木綿（一反ニ付円）	
玉鶴	反 三四五
綾鶴	三七五
日の出鶴	四〇五
若柳	三一五
蓬莱	四〇五

品名	五月廿五六日
製茶（一貫目ニ付）	
山城江州稀大頭	二、五五円
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七七
同中頭	一、五五
同中茶	一、二〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、五〇
同中頭	一、四〇
同中茶	一、一〇
鰹節（十貫目ニ付）	
土佐夏	二九、〇〇円
薩摩夏	三三、〇〇
伊豆夏	二九、〇〇
駿遠夏	二七、〇〇
房總夏	三三、〇〇
常州夏	一九、五〇
炭（一俵ニ付円）	
伊豆上	俵 四、三〇
同中	五、〇〇
同並	六、〇〇
丸備上	二、〇〇
角備上	二、三〇
水油（一樽ニ付）	
地水	六、七五円
胡麻	一〇、三〇
荏油	一〇、〇〇
桐油	五、九〇
冬	七、六五
坂水	七、六五
石油（一箱ニ付）	
チヤスター	一、六二円
デボース	……
ホーキ	一、六三
ロシヤ	一、五七

早稲田文學第拾五號目次

釋義

莊子　三島中洲氏

万葉集　畠山健氏

講述

德川文學　關根正直氏

評註

丹波與作　饗庭篁村氏

雜録

謠曲と文學　大和田建樹氏

詩話　野口寧齋氏

呉梅村永和宮詞　關澤霞菴氏

歌話　千葉梅園氏

江戸幕府時代に於ける園藝と文學　横井時冬氏

時文評論

文法に就きての論●今日の日本文學●維新以後の文法書（八號のつゞき）●新刊●近刊雜誌

早稲田文學定價

部数	定價	郵税
壹部	金九錢	全二錢
六部	金五拾壹錢	全十二錢
拾二部	金九拾六錢	全二十四錢
廿四部	金壹圓八拾錢	全四十八錢

自今 浪華女學校 ト改稱ス

大阪府東成郡清堀村番外十四番

私立 浪華女學校

舊一致女學校事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第廿四號目錄

女學生
俠氣……………………星野愼
漫筆
鎌倉に妹を想ふ……暗光子
自信……………………山月子
微笑……………………禿木子
詩歌の卷
わが園
武藏の多摩川……………
南洋の島影(其二)……畜勦生
文欄
鶯をきく……………村地千代子
先つ友たれ…………清水きよ子
春の梅………………赤井とら子
野遊…………………鈴木はつ子
王子の春……………あきの
博物の園
化物花………………
昔話
塙保己一心經を讀む……春風女史
信玄の孝……………
家康の馬術…………
大閤鳴く螢に苦しむ……
學びの栞
拾遺集畧解…………五百歳居士
雅樂多
時の感

第貳拾三號は賣切れ申候

右は去る廿一日發兌せり

交詢案内

養兒

身元正しく健康なる三歳の孤兒(男)あり若し實子なきを憂ひ收養を望まるゝ仁あらば御相談可申との事詳細は下名宛御問合せあらば御回答申すべし

東京本郷
帝國大學寄宿舍　高根虎松

看護婦派出廣告

看護婦入用の節は御依賴に應し本會より派出致可申候
但地方へも差出申候●貧困者は無給の事

東京本郷區森川町壹番地第百九十號
慈善看護婦會

本會ハ從來滿十一年以上ノ少女既婚未婚晩學ノ婦人又終日修學ノ餘暇ナキ者ニ至ル迄來學シ得ラル、便ヲ計リ少女會員撰修手藝ノ四科ヲ設テ授業シ來リシ處今回各級臨時募集ス望ノ方ハ至急申込ルベシ
欠員アリ

道修町八百屋町角
大坂婦人學習會

林學士 星野愼之輔君著

昆蟲植物金石 採集法

小形洋綴美本 正價金八錢 郵税金二錢

目録

昆虫分類
昆虫變態
採集地
採集注意
採集器
貯蟲器
刺針法
昆蟲運搬法
幼蟲類飼養法
葉とは何
花とは何
枝とは何
植物
及樹木種名

採集すへき部分
採集氣節
採集器具
乾腊法
標本製法
金石分類名稱
金石の現出
識別鑑定法
岩石分類名稱
土性分析法
採集器具
採集方法
地質觀測法
及ひ器具

木の間青み繁く蝶は野邊に舞ふ今や採集の期となりぬ請ふ一本を坐右に備へ給へよ。

發賣元 女學雜誌社

基督のすがた

植村正久 田中達 合譯 定價五十錢

右は蘇國の宣教師ゼームス、スタウタル氏のイマゴ、クリスチーを飜譯せるものにして、基督の眞躰を或は家庭より、或は國家より、或は教會より、或は朋友より、或は社會より觀察し、思想靈活、行文流暢、能く基督の徳を盡せり、願くは一書を座右に具へ、祈禱冥想の伴侶、人生の指南車となし給はんことを

あうがすちん

植村正久序 田中達撰 定價二拾錢

先聖アウガスチンの性行を平易簡明に叙述したるものにて、諸新聞雜誌の好評を得たる書なり。アウガスチンの一朝異教の才子より志を改めて正統派に歸せし來歴は以て求道者を益するに足るべくモニカが能く一家を化して愛の園となし、其子を導て遂に万代の師夫とならしめたる記事は、婦人社會に摸範を供すべく加ふるに本書はアウガスチンが神學上の意見をも簡單に叙述したれば、之を知らんと欲する人にも又益する所あるべし。

發兌所 麴町區三番町 南海堂

産婆 本郷區眞砂町十五番地 玉生くに

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三